

2017年10月15日(日)朝10:10
10月第3共同主日礼拝式説教

主の聖霊降臨節第20、交歓会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：7つのラツパ;第7の金の鉢: 哀歌

聖書:ヨハネの黙示録 18章9～20節

<口語訳>

新約聖書404頁

ヨハネの黙示録 18章9～20節

<新共同訳>

新約聖書473～474頁

ヨハネの黙示録 18章9～20節

<新改訳第3版>

新約聖書496～497頁

ヨハネの黙示録18章9～20節

<塚本訳>

新約聖書814～815頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝と大讚美、6～13章は、聖徒の戦い、天使と龍(悪魔・サタン)、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、15章は、金の怒りの鉢による神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、腫物、血海、血水、太陽炎焼、獣の座の暗黒による裁き、ハルマゲドンでの龍(悪魔・サタン)と獣等と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者の癒着、その奥義、自滅と仔羊の勝利予告、18章1～8節は、バビロンの滅亡予告。
- ◇ヨハネ黙示録18章9～20節は、大バビロン・大淫婦の滅亡への哀歌です。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第18章9～20節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録18章9～19節；ヨハネは、大バビロン・大淫婦の滅亡への哀歌を聴きます。

◇18:9～10；塚本訳◆王達の哀歌

「9 そして彼女と淫行をなし、(共に)奢っていた地の王達は、彼女の焼かれる煙を見た時、彼女のために泣いて胸を打ち、

10 (且つ)彼女の呵責の恐ろしさのため遠くに立って言うであろう、『禍なる哉、禍なる哉、大なる都、堅固なる都バビロン！一時の間にお前の刑罰は来たではないか！』

◇18:11～19；塚本訳◆商人達の哀歌

「11 また地の商人達は彼女のために泣き悲しむ。最早誰もその商品を買う者がいないからである——

12 すなわち金、銀、宝石、真珠(の商品も)、細布、紫色、絹、緋色の商品(も)、あらゆる(種類の)香木、あらゆる象牙の器(も)、究めて高価な木、青銅、鉄、大理石の器(も)、

13 肉桂、香料、香、香油、乳香、葡萄酒、油、

麦粉、穀物(も)、家畜、羊、馬、馬車、奴隸、人の靈魂(も)、凡て最早買うことが出来ない。

- 14 またお前の靈魂の欲しがる果物はお前から(逃げ)去った。あらゆる(お前の)華やかなもの、きらびやかなものもお前から消え失せた。それは最早決して(再び)見られないであろう。
- 15 これらの(物を商う)商人、(すなわち)彼女によって富んだ者達は、彼女の呵責の恐ろしさのため遠くに立ち、泣き悲しみつつ
- 16 言うであろう、『禍なる哉、禍なる哉、大なる都、細布と紫と緋の衣を着、金と宝石と真珠とにて(身を)飾っている者、
- 17 こんな(大きな)富が一時の間に荒れ果て(てしまっ)たではないか！』また凡ての船長、沿海を航海する凡ての人達、水夫達、海で働く人達も(悉く)遠くに立ち、
- 18 彼女の焼かれる煙を見て叫んで言うた、『(世界の)どの都が(かつて)この大なる都のようであったか！(しかしそれがあのよう(に)焼かれた！)』
- 19 そして頭に塵を被り、泣き悲しみつつ叫ん

で言うた、『禍なる哉、禍なる哉、大なる都、海に船を有つ者は皆其処で彼女の(夥しい)珍宝によって富んだのに、(今)その都が一時の間に荒れ果て(てしまっ)たではないか！』

◇9～10節；ヨハネは、「彼女と淫行をなし、(共に)奢っていた地の王達」が、「彼女の焼かれる煙を見た時、彼女のために泣いて胸を打ち」、「彼女の呵責の恐ろしさのため遠くに立って言う」、「『禍なる哉、禍なる哉、大なる都、堅固なる都バビロン！一時の間にお前の刑罰は来たではないか！』」という、「嘆きの声」を聴いたのです。

⇒「地の王達」は、「大バビロン・大淫婦の権力」の傘下におることで、権力をほしいままにしてきたが、それが失われる現実に直面している。

◇11～17節a；「地の商人達は彼女のために泣き悲しみ」、「(物を商う)商人、(すなわち)彼女によって富んだ者達は、彼女の呵責の恐ろしさのため遠くに立ち、泣き悲しみつつ言い」、「お前の靈魂の欲しがる果物はお前から(逃げ)去った。あらゆる(お前の)

華やかなもの、きらびやかなものもお前
から消え失せた。それは最早決して(再び)
見られない」、「『禍なる哉、禍なる哉、大なる
都、細布と紫と緋の衣を着、金と宝石と真珠
とにて(身を)飾っている者、

17 こんな(大きな)富が一時の間に荒れ果て
(てしまっ)たではないか！』と叫ぶ声を
ヨハネは、聴きました。

⇒「**地の商人達**」が、奢侈に酔って**大バビロン・
大淫婦**が滅亡する姿を見て、最高の商売の
機会を失う現実が語られています。

⇒大帝国ローマは、特に贅沢三昧の社会であり、
「**バビロンの繁栄**」とは、比べものにならない
ほどであったのです。

⇒ヨハネは、同胞ユダヤ民族を苦しめた帝国の
滅亡は、「**バビロンの滅亡**」と重なったのです。

◇17b～19節；「**凡ての船長、沿海を航海する
凡ての人達、水夫達、海で働く人達も(悉く)
遠くに立ち**」、「**彼女の焼かれる煙を見て叫ん
で言い**」、「**頭に塵を被り、泣き悲しみつつ
叫んで言い**」、「『**禍なる哉、禍なる哉、大なる
都、海に船を有つ者は皆其処で彼女の(夥し**

い)珍宝によって富んだのに、(今)その都が一時の間に荒れ果て(てしまっ)たではないか！』と、「ヨハネは、「沿海を航海する凡ての人達」の叫びの声も、聴きました。

⇒「**凡ての船長、沿海を航海する凡ての人達、水夫達、海で働く人達**」は、「**海上の通商**」を制覇した人々で、大帝国ローマは、大開港を堅持することで繁栄した海洋国家でもありました。

⇒「**地の王達**」は、権力面で、「**地の商人達**」と「**凡ての船長、沿海を航海する凡ての人達、水夫達、海で働く人達**」、商売での繁栄面で、「**大バビロン・大淫婦**」の滅亡は、絶望感を与えるものでした。

⇒「**権力者の悪行**」、「**権力者との癒着**」、「**権力者の奢侈**」を確実に**神**が裁かれます。

◆ 黙示録18章20節;ヨハネは、聖徒、使徒、預言者達の大バビロン・大淫婦の滅亡への大歡喜を聴きます。

◇18:20;塚本訳◆ヨハネの歡喜の歌

「20 天よ(喜べ、)聖徒、使徒、預言者達よ、彼女について喜べ、お前達の(流した血の)ために神が彼女に罰を加え給うたのだ！」

⇒この叫びは、ヨハネの黙示録6:9～11の「祭壇の下で大声で叫んで言った神の言のゆえに、また、そのあかしを立てたために、殺された人々の靈魂」、「聖なる、まことなる主よ。いつまであなたは、さばくことをなさらず、また地に住む者に対して、わたしたちの血の報復をなさらないのですか」の「叫び」の実現の叫びでした。

⇒ユダヤ人にとって、「血の報復」は、当然であるという感覚です。

⇒ヨハネの思いは、「天の御国にいる殉教者の叫び」と、連動するものであったのです。

⇒「神の選民」は、長い間の苦難を背負って来たので、苦難からの解放は、異邦人の私たちが想像する以上のものなのなのです。

◆ ルカ6章27～35節 ; ルカは、主イエス・キリスト様が、弟子たち、を福音宣教に派遣する時、「敵を愛し」、「敵を裁くな」と命じられたことを記録しています。

◇ ルカ6:27～35節 塚本訳;

◆ 敵を愛せよ <6:27～35>

27 しかし(今わたしの話を)聞いているあなた達に言う、敵を愛せよ。自分を憎む者に親切をつくし、

28 呪う者に(神の)祝福を求め、いじめる者のために祈れ。

29 あなたの頬を打つ者には、ほかの頬をも差し出し、上着を奪おうとする者には、下着をこばむな。

30 求める者にはだれにでも与えよ、あなたの物を奪った者から取り返すな。

31 あなた達は自分にしてもらいたいと思うとおり、人にしなさい。

32 自分を愛する者を愛すればとて、(神から)どんな恵みがいただけよう。不信者でも自分を愛する者を愛するのだから。

33 親切にしてくれる者に親切にしたからとて、

どんな恵みがいただけよう。不信者でも同じことをするのだから。

34 また、取りもどすつもりで貸したからとて、どんな恵みがいただけよう。不信者でも同じだけのものを取り戻そうとして、不信者に貸すのである。

35 しかし、あなた達は敵を愛せよ、親切をせよ、何も当てにせずに貸しなさい。そうすれば褒美をどっさりいただき、かつ、いと高きお方の子となるであろう。いと高きお方は恩知らずや悪人にも、憐れみ深くあられるのだから。

◆裁くな＜6:36～38＞

36 あなた達の(天の)父上が慈悲深くあられるように、慈悲深くあれ。

37 (人を)裁くな、そうすれば(神に)裁かれない。(人を)罪に落すな、そうすれば罪に落されない。赦してやれ、きっと(神に)赦される。

38 与えよ、きっと与えられる。押しつけ、ゆすり込み、こぼれるほど量りを良くして、懐に入れていただけのであろう。(人を)量る量りで、あなた達も量りかえされるからである。」

◇6:27、35節;「あなた達(主の弟子たち)」は、「**敵を愛せよ**」の命令を、「**主イエス・キリスト様**」から2度も与えられています。

⇒「**敵を愛せよ**」は、当時は、「**主イエス・キリスト様**」を迫害したユダヤ社会の指導者・実質の権力者であった律法学者、パリサイ人らが、敵対者でしたが、彼らを受け入れることを求められたのです。

⇒「**敵を愛せよ**」は、弟子たちができることではなく、勿論、「**主イエス・キリスト様**」には、分っておられたのですが、真の主の思いは、主ご自身が彼らを愛しておられることを共有してほしかったのです。

⇒「**敵を愛せよ**」は、命令であるとともに、**神信仰の告白**です。「**主イエス・キリスト様**」のみが、「**敵を愛せよ**」を実行できるお方で、十字架の死を背負って下さるお方なのです。

◇6:37節;「(人を)裁くな」、そうすれば、「(神に)裁かれない」、「赦してやれ」、そうすれば、「(神に)赦される」と、繰り返しておられます。

⇒「(神の)赦し」は、「**敵を愛される主**」のものであることを示しておられるのです。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」で、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通し(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録と理解。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝と大讃美、6～13章は、聖徒の戦い、天使と龍(悪魔・サタン)、獣との戦い、14章は、小羊への大讃美、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、15章は、金の怒りの鉢による神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、腫物、血海、血水、太陽炎焼、獣の座の暗黒による裁き、ハルマゲドンでの龍(悪魔・サタン)と獣等と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者の癒着、その奥義、自滅と仔羊の勝利予告、18章1～8節は、バビロンの滅亡予告。
- ◇ヨハネ黙示録18章9～20節は、大バビロン・大淫婦の滅亡への哀歌です。

⇒ヨハネの黙示録18:9～20は、「大バビロン・大淫婦」滅亡への地の王達、地の商人達、沿海を航海する凡ての人達の哀歌であり、聖徒、使徒、預言者達の「血の報復」への大歓喜です。

⇒この「神なき権力の自滅」の原則は、いつの時代においても、心にとめておき、「神の愛の律法」に生きることに全力を注ぐことが、神の御意に従って生きる秘訣です。

⇒神信仰によって生きる者にとって、この裁きの啓示を通して知るべきことは、「滅びの道」に乗らないで、「天の都」を目ざす道を確実に歩もうと再確認、再決心をすることです。

⇒「神信仰」に生きる戦いととも、「天の都」を目ざすことを政治、経済、文化の流れの中に巻き込まれると、心が結びつかなくなります。

⇒「大バビロン・大淫婦」滅亡の哀歌ではなく、「豊かな慈愛と忍耐と寛容」、「憐れみ深い」の神が、「神信仰」に生きるため、「敵を愛せよ」、「(人を)裁くな」と命じられるその思いを心にとめて、神の御霊に満たされて生きたい。

⇒神は、「(神に)赦され」、「(神に)裁かれない」
天の御国への主イエス・キリスト様の道を
確実に歩めるのです(ルカ6:27、35、37)。